



【本号のトピックス】

第3回高齢者医療臨床研修会開催報告／第5回TAGD参加報告／
共催シンポジウム報告／歯学協第8回シンポジウム報告／支部だより／
委員会だより／第2回高齢者医療臨床研修会開催報告／学会だより

第3回高齢者医療臨床研修会 「在宅高齢者などに対する歯科治療のリスク管理」開催報告

研修委員会幹事 潮田高志

第3回高齢者医療臨床研修会が東京支部、神奈川支部、埼玉支部、千葉支部との共催、また東京都歯科医師会、神奈川県歯科医師会、埼玉県歯科医師会、千葉県歯科医師会の後援を受け、2017年12月10日(日)「ベルサール神保町アネックス」にて開催されました。

第1回、第2回のテーマは「高齢者の服用薬からわかること、モニタリングからわかること」とし、主に全身管理の概論を中心とした内容でしたが、今回からはより各論に近い内容として「在宅高齢者などに対する歯科治療のリスク管理～地域の新たなかかりつけ歯科医を目指して～」をテーマとし、原土井病院みどりのクリニック長尾哲彦先生から「身体所見から読み解く高齢者の健康状態」、昭和大学医学部麻酔科学講座 岡 秀一郎先生から「在宅高齢者訪問歯科診療におけるリスク管理と緊急対応」、九州歯科大学口腔保健・健康長寿推進センター大渡凡人先生から「全身の偶発症症例から学ぶ有病高齢者のリスクマネジメント」の3演題をそれぞれご講演いただきました。

当日は羽村 章東京支部長、那須郁夫千葉支部長にご参加、ご挨拶いただき講演が始まりました。各演題ともに全身評価や治療中のマネジメント、有事の対処法など具体的な事例とともに少し踏み込んだ内容でありましたが、3つの内容はリンクしていることから非常にわかりやすい構成となっていました。今回も質疑応答は全講演終了後にパネルディスカッション形式で行われました。会場からは多くの質問が挙がり、それに対して演者の先生方からわかりやすい回答をいただき、時間を超過するほど白熱した質疑応答が繰り広げられていました。また、講演終了後も各演者に個別質問を行っている参加者が多

数みられ、非常に有意義な研修会となりました。

今回の参加者は130名で、関東を中心とした近県からが大多数でしたが、遠方からの参加もいただきました。参加者の職種は歯科医師、歯科衛生士が多く、訪問歯科診療に携わる先生方の参加も多数見受けられました。超高齢社会のなかで訪問歯科診療の重要性がさらに増している昨今、われわれ歯科医師、歯科衛生士は真摯な姿勢でこれを履行しなくてはならず、本研修会での参加者の姿勢は高水準の医療を安全に提供しようという意識の高さを強く表すものでした。

今後は第4回として、3月に同内容の研修会を福岡で開催する予定となっており、すでに多くの参加申し込みをいただいております。第3回を終え、本研修会が多くの先生方に向けて情報発信ができていたことを認識できたとともに、歯科医療に従事する多くの方が今後の超高齢社会での歯科医療の在り方をどうすべきかについて真剣に取り組んでいることを確信する結果となりました。



白熱した質疑応答の様子

中華民国老人口腔医学会(TAGD)第5回国際学術検討会・総会に参加して

国際渉外委員会委員 原田和昭

2017年10月28～29日に、中華民国老人口腔医学会(TAGD)第5回国際学術検討会・総会および専門医認定試験が、台湾台北市福華大飯店で開催されました。今回は日本、アメリカ、台湾の3カ国から参加者がおり、英語を共通語として、高齢者の系統疾患と口腔保健を考慮した歯科補綴治療のまとめがメインテーマでした。初日に林立民理事長より開催の趣旨が述べられ、特別講演演者の櫻井 薫理事長やアメリカの学会長が紹介されま

した。また、今回の開催を通して、姉妹提携を交わして以来の実質的な交流ができたことがたいへん有意義であると述べられました。

初日に櫻井 薫理事長は、日本の高齢者の口腔事情を紹介され、口腔機能低下症を中心にその兆候、検査の手順、対応策などを解説し、また日本老年歯科医学会会員数の増加状況も紹介されました。台湾厚労省の歯科医業行政のトップである張雍敏心理・口腔健康副局長から、日本

における口腔機能低下症の保険適用の可能性についての質問がありました。次に、アメリカ Special Care Dentistry Association の前会長 Prof. Miriam R. Robbins が有病高齢者の診療指針について講演されました。続いて、国立陽明大学の季麟揚教授が 2017 年 6 月より台湾で実施している介護保険の歯科との関わりについて講演され、金恵民栄養士学会会長が系統疾患を有する高齢者の栄養と健康について講演されました。

2 日目は、各分野の専門家による異なる立場からの高齢者の補綴治療についての講演がありました。まず高齢者の義歯が摂食嚥下にどのような影響を与えるかについて筆者が講演しました。続いて、漢方医の立場からみた高齢者の全身疾患と口腔保健との関係について（許中華教授）、台湾健康保険制度における高齢者の歯科保険請求の実例について（許世明医師）、アメリカと台湾で経験した高齢者義歯製作内容の比較検討について（王本華医師）などの報告がありました。再び Robbins 教授が、高齢者の多剤服用が健康に与える影響についての講演をされ、インプラント治療における咬合理論とインプラント体の応力分布に関する解説（周肇茂教授）、インプラント治療の生理と審美についての考え方（陳仲庚医師）などの講

演がありました。

2 日間の参加者は約 40 名でした。質疑応答の時間では、座長の鄧延通副理事長が流暢な英語を駆使し、ときに聴講者にわかりやすく中国語で解説することで、参加者からはたいへん好評でした。



左：記念品贈呈，林立民理事長と櫻井 薫理事長
右：懇親会写真，前列左側から櫻井理事長，林 TAGD 理事長，Robbins SCDA 前会長，後列左側から季理事，陳医師，陳理事（原田和昭），鄧副理事長，劉事務局長

第 47 回日本口腔インプラント学会学術大会・共催シンポジウム報告

常任理事 佐藤裕二

第 47 回日本口腔インプラント学会学術大会(9 月 23 日，仙台)において、「高齢者に対するインプラント治療：その長期メンテナンス」と題して，本学会との共催シンポジウムが開催されました（座長：櫻井 薫理事長，阿部伸一教授・東京歯科大学）。口腔インプラント学会からの登壇者である阪本貴司先生は，患者・歯科医の高齢化による問題点について，社会的な背景も含め講演されました。歯科衛生士として柏井伸子先生からは，患者の高齢化・全身疾患や運動障害への配慮および緊急時の対応などについてチームアプローチの面から提言されました。老年歯科医学会からは筆者が，歯科訪問診療におけるインプラント患者の現状と対策について講演をいたしました。多くの討論もあり，手応えを感じました。インプラントに関しては，6 月の本学会学術大会でも取り上げる予定です。



左から，阿部伸一先生，筆者（佐藤裕二），阪本貴司先生，柏井伸子先生，櫻井 薫理事長

「摂食嚥下障害と口腔健康管理」講演報告

社会保険委員会委員長 菊谷 武

11 月 12 日に開催されました，日本歯学系学会協議会第 8 回シンポジウムにおいて標記の講演をいたしましたので，以下に内容の一部を紹介します。

東京大学の秋山弘子特任教授のデータ（男性高齢者 5,715 人の追跡調査）によると，約 2 割の高齢者は 60 歳代より，約 7 割の高齢者は 70 歳代後半より日常生活動作能力を低下させることがわかっています。これは，多くの高齢者は，外来診療室には通えなくなっていくことを示しており，訪問診療などの対応が必要となる一方，高齢者の摂食嚥下障害は Common disease といえ，今後も誤嚥性肺炎患者は増加すると予想されます。私たちが行った，介護老人福祉施設における食支援の介入データでは，誤嚥性肺炎のリスク因子は唾液の誤嚥でした。しかし，唾液誤嚥を回避することは困難であるため，リスクの低減には口腔ケアによる口腔衛生管理の必要性が

強調されます。一方で，歯の多く存在する要介護高齢者においては，唾液中の細菌数が増加する傾向にあることから，効率的・効果的な「口腔健康管理」を行う必要があり，口腔ケアマネジメントが重要である，と報告しました。



昭和大学で行われたシンポジウムの様子

支 部 だ よ り

広島・山口・島根支部合同セミナー開催報告

広島支部 猪原 光
2017年10月1日(日)福山市歯科医師会館にて、標記のセミナーが開催されました(参加者54名)。皆木省吾先生(岡山大学大学院咬合・有床義歯補綴学教授)より「在宅義歯難症例を噛める義歯にするマニュアルの対処法」と題してご講演いただきました。諸家乱立する義歯治療理論ですが、先生は治療を成功に導く方法について要介護高齢者にターゲットを絞ってわかりやすく示されました。質疑応答も活発に行われ、たいへん有意義なセミナーになりました。



講師の皆木省吾先生(左から3番目)・スタッフ一同

岡山支部共催セミナー 「病院歯科介護研究会 第20回総会・学術講演会」開催報告

岡山支部 澤田弘一
岡山支部は、共催として参加者139名を迎えて、「病院歯科介護研究会 第20回総会・学術講演会」を、2017年10月15日(日)国際交流センター(岡山市)において開催しました。「対人援助論は歯科医療者を援助するか」と題した村田久行先生(京都ノートルダム女子大学名誉教授/対人援助・スピリチュアルケア研究会理事長)のご講演を、木村章彦先生(鳥取医療生協鹿野温泉病院病院長)の座長のもとで行いました。次に「アウトリーチしていますか?～これから求められる歯科医療～」と題した渡辺俊介先生(国際医療福祉大学大学院教授)のご講演、「疾患別対応 アルツハイマー型認知症の摂食嚥下リハビリテーション」と題した野原幹司先生(大阪大学大学院歯学研究科准教授)のご講演を、江草正彦先生(岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センターセンター長・教授)の座長のもとで行いました。午後からは、言語聴覚士(時田春樹先生)、歯科衛生士(向井麻理子先生)および看護師経験の長いケアマネジャー(丸田康代先生)から臨床現場での対人援助論の応用についてご講演をいただき、総合討論を行いました。



熱気あふれるセミナーの様子

愛媛支部共催セミナー 「第21回『口から食べたい』セミナー」開催報告

愛媛支部 高橋徳昭
2017年10月22日(日)松前総合文化センターにて、伊予歯科医師会主催による標記セミナー(メインテーマ「安全に食べるには」)を開催しました。21号台風のさなか、参加者は多職種の方々を含め257名でした。

一般社団法人TOUCH代表理事 舘村 卓先生には「3つのキーフレーズで考える摂食嚥下障害への対応」について、奥州市国保衣川歯科診療所の佐々木勝忠先生には「医科歯科連携で歯科ができること」についてご講演いただきました。

また、「義歯を通して多職種連携を考える」というテーマでディスカッションを行いました。地域包括ケアシステムの実践に向けたセミナーでした。



上段左：舘村 卓先生
上段右：佐々木勝忠先生
下段：ディスカッションの様子

群馬支部主催研修セミナー・ シンポジウム開催報告

群馬支部 鎌田政善
2017年11月5日(日)に群馬県歯科医師会館(前橋)において、群馬県歯科医師会の共催と群馬県の後援をいただき、群馬支部主催のシンポジウムと講演会を開催いたしました。日曜日にもかかわらず、郡部の歯科医師会会長をはじめとして医療従事者や介護従事者など60名あまりの方々に参加していただきました。

シンポジウムは「多職種連携の現状と問題点一現場におけるそれぞれの立場から」と題し、歯科医師の稲川元明先生(高崎総合医療センター)、看護師の富山麻祐子先生(公立藤岡総合病院)、歯科衛生士の高坂陽子先生(前橋赤十字病院)、言語聴覚士の丹下弥生先生(老年病研究所附属病院)および管理栄養士の三井恭子先生(老人保健施設鬼石)の5名のシンポジストの方々よりご講演いただき、多職種連携の重要性と必要性について再確認することができ、さらにいくつかの問題点についても共有することができたと考えております。

また、基調講演として日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックの菊谷 武教授より「地域における食支援一なにをどう食べるかを地域で共有するために」と題しご講演を賜りました。在宅療養者への地域における一貫した食支援の必要性が重要であると感じ取れる内容であり、今後増えるであろう在宅療養者への大切なアプローチであり、共感を得たとの意見を受講者からいただきました。

最後に菊谷教授・シンポジスト5名の方と受講者で質疑応答が行われ、盛況のうちに閉会となりました。



5名のシンポジストと講演中の菊谷 武教授(写真右下)

石川支部共催セミナー 「平成 29 年度金沢市歯科医師会 市民公開講座」開催報告

石川支部 高木治仁

2017年11月12日(日)石川県歯科医師会館にて、「いい歯の日お口の健康フェスティバル」金沢市歯科医師会市民公開講座が行われ、約120名の方々に参加していただきました。

講師には公立能登総合病院歯科口腔外科医長 長谷剛志先生をお招きし、この春から金沢市の委託事業として行われている、介護予防事業である「歯つらつ健康プログラム」を広く市民の方に知っていただくために、ご講演いただきました。

演題は「『お口の健康』が寝たきり予防に！？ 今すぐ始めよう『歯つらつ健康プログラム』」でした。講演後、市民の方から数多くの質問をいただき、介護予防に対する高い関心をうかがうことができました。



講師の長谷剛志先生

石川支部共催セミナー 「第 10 回石川県歯科医師会 栄養士会連携研修会」開催報告

石川支部 高木治仁

2017年11月26日(日)、石川県歯科医師会館にて標記研修会が「地域包括ケアシステムで生きる歯科医師・栄養士の連携」のテーマで開催され、115名の方々が受講しました。公立能登総合病院 長谷剛志先生が「高齢者の『食べる力』を見る化する」の演題で、訪問歯科診療から食支援につなげるステップアップについて、食事観察サポートソフト「い〜とみる」の事例を交え講演され、小松市松寿苑歯科衛生士の西出一美先生と管理栄養士の重吉幸代先生が「ミールラウンドによる食支援～歯科衛生士と管理栄養士の立場から～」の演題で、利用者への食支援について具体例を交え講演されました。質疑応答の後、3名の先生方に感謝状が贈呈され、盛会裏に終了となりました。



セミナーでの質疑応答の様子

岡山支部共催セミナー「要介護高齢者の低栄養を 防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔 栄養関連サービスの推進 公開セミナー 地域・在宅高齢者の『食』に寄りそう」開催報告

岡山支部 澤田弘一

・第7回公開セミナー

参加者99名を迎えて、標記セミナーを2017年12月3日(日)井原市(岡山県西部)の井原市地場産業振興センターにおいて開催いたしました。午前に、丸山淳也先生(岡山家庭医療センター・津山ファミリークリニック医師)による「家庭医が行う訪問診療の現場から見た食とは？」、菊谷 武先生(日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック歯科医師)による「地域で食べるを支えるということ～在宅食支援からみえてきたこと～」、花本美奈子先生(栄養ケアサポートLinkのぼりと管理栄養士)による「在宅療養支援歯科診療所で取り組む管理栄養士の居宅療養管理指導の実践」の講演がありました。これらの内容を受けて、午後からは、菊谷先生がコーディネーターを務め、富岡加代子先生(岡山県栄養士会)、戸原 雄先生(日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科)、高橋賢晃先生(日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科)、花本先生、丸山先生がファシリテーターとなり、摂食嚥下困難者に対する食支援の方法について、多職種でグループワークを行いました。



集合写真(第7回公開セミナー)

・第8回公開セミナー

参加者145名を迎えて、標記セミナーを2017年12月17日(日)岡山市の岡山大学病院において開催いたしました。午前に、中村幸伸先生(訪問診療専門開業内科医・岡山県)による「食べる楽しみを支える在宅医療」、菊谷 武先生(日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック歯科医師)による「地域で『食べる』を支えるということ～在宅食支援からみえてきたこと～」、時岡奈穂子先生(特定非営利活動法人はみんぐ南河内管理栄養士)による「地域・在宅高齢者の食に寄りそう」の講演がありました。これらの内容を受けて、午後からは、菊谷先生がコーディネーターを務め、渡邊和子先生(くらしき作陽大学食文化学部栄養学科管理栄養士)、村田尚道先生(岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター)、戸原 雄先生(日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科)、富岡加代子先生(岡山県栄養士会)、中村先生、時岡先生がファシリテーターとなり、摂食嚥下困難者に対する食支援の方法について多職種でグループワークを行いました。



集合写真(第8回公開セミナー)

委員会だより

教育問題検討委員会

委員長 福島正義

超高齢化が急速に進む今日、高齢者を対象にした歯科医療、歯科保健、福祉の充実が求められています。これらの課題を包括的に研究し、臨床および教育を主導する日本老年歯科医学会の役割はますます重要になっています。教育問題検討委員会はそうした状況のなかで 2015 年に卒前教育のための「教育基準」を公表しました。この基準は歯科医師のみならず協働者である歯科衛生士を含めた歯科医療従事者養成を視野に入れたものです。しかし、日本の歯科医療従事者養成機関における老年歯科医学関連の教育状況は十分把握されていませんでした。そこで本委員会では、2016 年 12 月から 2017 年 9 月にかけて歯科大学・大学歯学部 29 校および歯科衛生士養成校 163 校を対象に老年歯科医学教育の実態調査を実施いたしました。調査の回収率は歯科大学・歯学部で 100%、歯科衛生士養成校で 8 割以上でした。調査内容は「老年歯科医学教育の実態調査」および「教育基準（2015 年版）の教育実施状況」の二部構成としました。前者は複数科目で行われている老年歯科医学関連の講義および実習などについてです。後者は、「教育基準（2015 年版）」の各項目について教育実施の有無を問うものです。歯科大学・歯学部の調査結果はすでに学会誌「老年歯科歯学」第 32 巻第 2 号（2017 年）に委員会報告として掲載され、学会ホームページ上にも公開しましたので一度お目通しいただければ幸いです。歯科衛生士養成校の調査結果も委員会報告として次号の学会誌に掲載される予定です。

2017 年に歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）と歯科医師国家試験出題基準（平成 30 年版）が公表されました。それらと本学会の教育基準（2015 年）との整合性を確認する必要があります。そこで 2018 年 6 月の第 29 回学術大会（東京）で、歯科衛生士養成校の調査結果を含めて「老年歯科医学の卒前教育の実態はどうなっている？」のシンポジウムを開催します。これらの分析から教育機関における教育体制を考察し、今後の教育基準の改訂、教科書の改訂、臨床実習マニュアルの作成などの参考にします。

第2回高齢者医療臨床研修会開催報告

第 2 回高齢者医療臨床研修会が 2017 年 10 月 1 日（日）「メルパルク大阪（大阪市淀川区）」にて開催されました。本年 3 月に開催した第 1 回本研修会にご好評をいただいたことにより、同テーマ「高齢者の服用薬からわかること、モニタリングからわかること」を大阪においても実施する運びとなりました。第 1 回と同様に、九州歯科大学口腔保健・健康長寿推進センター 大渡凡人先生から「薬剤情報から組み立てる高齢者歯科患者のリスクマネジメント」、東京歯科大学歯科麻酔学講座 松浦信幸先生から「今日から使える生体データ 100%活用術」、日本歯科大学

学術委員会

委員長 水口俊介

超高齢社会の到来により歯科医学、歯科医療が高齢者に対応するためのさまざまなエビデンスの整備が重要になっています。昨年度来、本委員会が注力してきたものの一つに「口腔機能低下症」があります。2016 年には本学会誌に「口腔機能低下症」に関するポジションペーパーを発表させていただきました。口腔の機能低下が全身の機能低下につながるということを念頭に、いち早く口腔に現れる兆候に気づき、歯科医療者によって治療や管理ができるように病名として確立できないか。またそのための議論の骨格を示し、さらなる臨床研究の契機となることを意図してのものでした。現在はそのポジションペーパーの英文化の作業を行っているところです。もし「口腔機能低下症」が病名として認められれば、高齢患者にとって、またその方々を診療する歯科医療者にとってたいへんなメリットであると考えます。「口腔機能低下症」については 3 年連続で学術大会でのシンポジウムを予定しております。

もう一つは、脳卒中患者に対する早期の歯科的介入が及ぼす効果に関するガイドラインです。これは現在、ガイドライン委員会と学術委員会で WG を組織し作業を進めています。かなりたいへんな作業なのですが、周術期口腔管理と同様に脳卒中に関しても口腔管理を付けることに大きく貢献するものと思われまので、WG は頑張っています。

このほか、2018 年の学術大会では在宅歯科診療等検討委員会と共同で「在宅診療を科学する」というシンポジウムを予定しております。在宅歯科診療の問題点、現場で問題となっていること、自分で在宅診療を始めるときにはどのようなことに注意しなければならないかを情報提供したいと考えておりますので楽しみにしててください。



研修委員会幹事 潮田高志

命歯学部口腔外科学講座 松野智宣先生から「主治医に病状を照会するためのポイント ABC」の 3 演題をそれぞれご講演いただきました。まさに今臨床で必要とされている知識を押さえた内容であり、当日のプログラムには抄録に加えて聴講者のメモをサポートする Headline を加えたことで、講演中は熱心にメモを取る姿が非常に多く見受けられました。また講演終了後のパネルディスカッションでは、聴講者より高齢者の健康を支える臨床現場の声や高齢者の全身管理に関する熱心な姿勢を届けていただき、演者と聴講者が一体となった有意義な研修会となりました。

ました。関西地区はもとより、福岡県からの参加者が大阪府に次いで多くおり、広い地域から関心をお寄せいただいたことは、超高齢社会のなかで歯科医療の前線を担う先生方の意識水準の高さを表すものであると感じました。

第3回は東京、第4回は福岡で「在宅高齢者等に対する歯科治療のリスク管理」をテーマに、概論から各論へとより密度の高い内容になります。詳細は、各研修会の開催報告または開催案内をご参照ください。



研修会での質疑応答の様子

学 会 だ よ り

第29回学術大会演題締切迫る —2018年1月31日まで—

第29回学術大会の演題登録締切日が近づいておりますので、お急ぎください。

詳細は大会ホームページでご確認をお願いします。

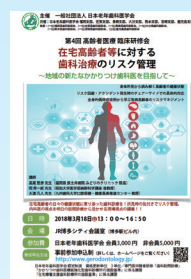


第4回高齢者医療 臨床研修会のご案内

日 時：2018年3月18日（日）
13:00～16:50

会 場：JR 博多シティ会議室
（博多駅ビル内）

皆様のご参加をお待ちしております。



2017年度優秀奨励論文賞（ライオンアワード）の 候補者募集について

1. 受賞資格〔表彰制度規程第4条3〕
 - ・2017年1～12月に「老年歯科医学」「Gerodontology」に掲載された原著論文の筆頭著者であること。
 - ・当該論文掲載時において満50歳未満であり、且つ2018年3月31日において3年以上継続して本会会員である者。
2. 応募方法：自薦・他薦を問いません。他薦の場合、推薦者は本会会員に限ります。
3. 申請方法：学会ホームページで確認してください。



第5回歯科衛生士関連委員会主催セミナー 来年度は『歯科衛生研究の基礎』（講義編）/ 『医療統計の基礎』（演習編）です！！

日 時：2018年6月24日（日）

会 場：AP 品川（JR 品川駅 徒歩3分） 事前申込制
※詳細は、順次、学会ホームページに掲載します。

支部セミナーのご案内

★詳細は、学会ホームページでご確認ください。

・福岡支部研修会

日 時：2018年1月28日（日）10:00～15:35（予定）

会 場：福岡県歯科医師会館 大講堂

主 催：日本老年歯科医学会 福岡支部

・千葉支部主催セミナー「第2回公開研修セミナー」

日 時：2018年2月11日（日）13:00～16:30

会 場：千葉県歯科医師会館 2階ホール

テーマ：高齢者の健康長寿と栄養について

主 催：日本老年歯科医学会 千葉支部

編集後記

記念すべきニュースレター30号では、研修会の開催報告、各種委員会での活動、支部セミナーのご紹介などをいたしました。2018年度は介護保険・診療報酬改定もあり、医療・保健・福祉の変化への柔軟な対応が求められる1年となりそうです。広報委員会では、引き続き皆様に有益な情報をお届けしたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

（小原由紀）



発行人 櫻井 薫

編 集 （一社）日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル （一財）口腔保健協会内

電 話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp